

空海

2018 年本試

問 2 次のア～ウは，仏教の布教に取り組んだ人物についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

21

ア 鑑真は，密教の教えに厳密な戒律を取り入れた真言律宗の立場から，各地を遍歴し，病人の救済や，道路や橋の修造を行った。

イ 空海は，唐で密教を学び，帰国後に真言宗を開くとともに，綜芸種智院を設立し，庶民教育にも努めた。

ウ 一遍は，念仏を唱えれば信不信にかかわらず往生できることを伝えるべく，各地を漂泊したことから，遊行上人と呼ばれた。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ② | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ④ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	21	④	3

2018 年追試

問 3 次のア～ウは、仏教者が説いた修行についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 22

ア 空海は、宇宙の万物は大日如来の現れであり、また、人々の生命の根底にも大日如来の力が働いているとし、修行を通じてその力と一致することで即身成仏を遂げることができると説いた。

イ 源信は、地獄や浄土の姿を克明に描写しつつも、実は、地獄も極楽も迷いが見せる幻だとし、厳しい修行を伴う観想念仏によってありありと ^{おも}い ^み観られる仏が唯一の实在であると説いた。

ウ 道元は、ひたすら坐禅することそのもののうちに悟りが実現するとし、そうした坐禅において到達する、身も心もすべての執着から離れた自在な境地を身心脱落と呼んだ。

- ① ア 正 イ 正 ウ 誤
- ② ア 正 イ 誤 ウ 正
- ③ ア 正 イ 誤 ウ 誤
- ④ ア 誤 イ 正 ウ 正
- ⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤
- ⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	22	②	3

2017 年追試

問 3 次のア～ウは、日本の仏教者についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

22

ア 空海は、仏教の多様な教えを、大日如来の教えである顕教と釈迦の教えである密教に分類したうえで、密教こそが人々を悟りに導く究極の教えであると主張した。

イ 蓮如は、平易な和文で『教行信証』を著し、自力の修行ではなく、阿弥陀仏の他力によって極楽往生を遂げるべきだと説く浄土真宗の教えを、人々に広く浸透させた。

ウ 日蓮は、災害の多発する状況は、釈迦の究極の教えである『法華経』が軽視されていることに起因するとして、禅や念仏を厳しく排斥し、『法華経』に帰依すべきだと主張した。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問3	22	⑦	3

2016 年追試

問 2 空海の説いた真言密教の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

21

- ① 穢土と呼ばれるこの世にありながらも、仏典の題目を唱えることにより、衆生を救おうとする永遠不変の大日如来のはたらきで、誰もが救われる仏国土が実現する。
- ② 衆生には、生まれつき仏と関わりのない者がおり、たとえ宇宙の真理そのものである大日如来の教えに ^{あずか} 与ることができたとしても、そうした者は悟りを得ることができない。
- ③ 手に印契を結び、神聖な言葉を唱え、心に仏を観ずるという三密の修行を行うことによって、大日如来と一体になり、この身のままで仏になることができる。
- ④ 大日如来が説いた秘密の教えは、個人の修行によっては理解できないものであるため、仏の世界を図示した曼荼羅の絵解きを受けることにより、人は悟りへと導かれる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	21	③	3

2013 年追試

問 2 下線部 b に関連して、天台宗の最澄と、同時代を生きた空海の思想について述べた文章として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 22

- ① 最澄は、すべての生命あるものは生まれながらに仏であるとした。一方、空海は、人は真言を唱えることで、宇宙の真理そのものである大日如来の境地に至り、成仏できると説いた。
- ② 最澄は、仏になれるかどうかは人の資質により差異があるとした。一方、空海は、人の本性は生まれながらに宇宙の本質である大日如来の一部であるから、資質に関係なく成仏できると説いた。
- ③ 最澄は、人の資質に差異はなく、自らの仏性を自覚して修行すれば、等しく成仏できると説いた。一方、空海は、人は密教の修行をすれば大日如来と一体化し、この身このままで成仏できると説いた。
- ④ 最澄は、仏になれるかどうかは人の資質により差異があるとした。一方、空海は、手に印を結び、口に真言を唱え、心に仏を ^{おも}憶いながら死に至るならば、必ず成仏できると説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	22	③	3

2010 年本試

問 1 文章中の に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

仏教をさらに深く学ぶため唐に渡った空海は，密教の僧惠果に出会った。帰国した空海はそれを真言密教として体系化し， と一体化することで即身成仏できると説いた。

- ① 弥勒菩薩 ② 法蔵菩薩
③ 釈迦如来 ④ 大日如来

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	13	④	2

2005 年追試

問 1 文章中の 19 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

空海の真言密教では、根源的な何ものかとは大日如来であり、宇宙の構成要素としての「六大」(地・水・火・風・空・識)として展開している。「六大」から生み出された人間は、大日如来によっていのちを与えられていることになる。生きるとは、その与えられたいのちが しん・く・い の三つの働き、すなわち三業として現れることにほかならない。そして大日如来自らも、いのちを身・口・意の三密において展開している。従って、単に生きるのではなくよりよく生きようとすれば、人間はいのちの根源としての大日如来と めいそう 瞑想体験において一体になるべきであるとされた。人間の三業を大日如来の三密と合一させることを 19 という。

- ① 梵我一如 ② 即身成仏 ③ 安心立命 ④ 知行合一

問 2 密教と顕教についての空海の考えの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 21

- ① 顕教は出家者自身の悟りを追求する教えであるのに対し、密教は大日如来の秘密の慈悲に基づき、在家者を対象とする教えである。
- ② 顕教は釈迦が言葉によって説いた教えであるのに対し、密教は言葉の働きを信頼せず、大日如来を中心に世界を図像化した教えである。
- ③ 顕教は釈迦が人々の能力に応じて説いた仮の教えであるのに対し、密教は、大日如来が自らの境地そのものを説いた秘密の教えである。
- ④ 顕教は自力による悟りを目指す教えであるのに対し、密教は自力よりも、大日如来からの働きかけという他力を重視する教えである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	19	②	2
第 3 問	問 2	21	③	2

2003 年本試

問 8 慈悲に基づく利他は様々な仕方実践されたが、密教の場合の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 凡夫の無力さの自覚を踏まえ、まず往生し成仏を遂げ、再びこの世に ^{かえ}還るときこそ真実の利他をなそうと誓って、念仏を唱えた。
- ② 行者がその身と口と心において仏と一体化を遂げるとき、仏としての救済力を他に及ぼしうるとして、除災や招福の祈禱をした。
- ③ ひたすら坐禅に打ち込み、日々の生活のすべてを厳しく律することを通じて、自ら仏の ^{ちえ}智慧と慈悲を獲得しようと努めた。
- ④ 正しい教えが見失われた時代には、まず人々の迷妄をくじき破ることにこそ慈悲があるとして、迫害を恐れず他宗を批判した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 8	26	②	3